



- 教育目標
- 自分で考え進んで実践する人間
 - 公共心に富み情操豊かな人間
 - 勤労を尊び責任を重んじる人間
 - 健康でたくましい人間

「体験」を、より良く生きていくための「経験」に…

校長 関 勝 志

ようやく秋らしさを感じられるようになりました。記録的な猛暑に加えて、新型コロナウイルスとインフルエンザがダブル流行する中、2年生の職場体験を皮切りに、1年生の川越校外学習、3年生の修学旅行を、予定通り無事に実施することができました。ご家庭にもご協力いただき、ありがとうございました。

1年生は、中学生になって初めての校外学習でした。江戸時代に城下町として栄え「小江戸」とも呼ばれる、川越の町を散策しました。学びの原点でもある知的好奇心を働かせて、城跡や神社、寺院など、歴史的に価値のある建造物や文化財、蔵造りの街並みを実際に見ることができ、「学ぶ」ことの楽しさを実感しました。すべて班行動でしたが、生徒たちは仲間と協力し、安全に、マナーよく行動することができました。3年生の修学旅行に向けて、経験を積み重ねてほしいと思います。



2年生は、4年ぶりとなる職場体験でした。「しっかりやらなくては」という緊張感と「ちゃんとできるかな」という不安感、そして「初めての体験」にワクワクする気持ちで臨みました。たった3日間でも生徒たちはとても疲れたようです。働くことの大変さを実感しました。それでも、「挨拶がよくできます」「指示されなくても自主的に仕事をしています」「自分の仕事が終わると何かお手伝いしましょうかと積極的です」などのお褒めの言葉をいただきました。



3年生は、校外学習の集大成となる修学旅行でした。「学ぶ」「楽しむ」「思いやる」「感謝する」「挨拶する」という5つのことができていました。寺社仏閣の見学だけでなく、止観（座禅）も体験しました。ほとんどの生徒が初体験だったと思いますが、身を調べ、息を調べ、心を調べ、進んで警策も受けていました。お坊さんが「時間の長さは心の持ち方で感じ方が違う」というお話をされ、「いまこの時を大切にすること」や「心を集中すること」の大切さを説いてくれました。他にも多くの学びがあったことと思います。最終日に、実行委員が宿の支配人さんに「宿の皆さんのおかげで、健康に過ごせて、楽しい思い出ができました」と心を込めて感謝の気持ちを伝えていました。



校外学習はすべて体験活動です。豊かな人間性や自ら学び考える力など、「生きる力」の基盤となるものとして、本校では重視しています。

「百聞は一見に如かず」ということわざのとおり、言葉で何かを説明されるよりも実際に見て、触れて、体験する方がずっと理解しやすいものです。特に子どもは五感を通して物事を体験することによって様々なことを身に付けていきます。「見る（視覚）」「聞く（聴覚）」「味わう（味覚）」「嗅ぐ（嗅覚）」「触れる（触覚）」を働かせ、物事を感覚的にとらえる中で、楽しんだり、驚いたり、感動したりしながら、「なぜ、どうして」と、あれこれ思いをめぐらせ考えを深めていきます。正解があるわけではない学びです。また、集団活動では、様々な人間関係の摩擦や、集団で行動することで得られる成就感や達成感等を通じて、自らを律する心や集団活動の意義を学び、社会性を身に付けます。

「体験」という言葉と、もう一つ「経験」という言葉があります。どう違うのでしょうか。「体験」は行動そのものを意味します。「経験」は行動（体験）から学んだ知識や技能を身に付けることを意味し、それは「生きる力」となります。そして、「体験」を「経験」に繋げるために必要なことは「振り返り」と「応用」です。

今回の校外学習を、行動としての「体験」だけに終わらせることなく、人生の糧となる「経験」に繋げるためにも、しっかりと振り返って、学んだことや感じたことを整理し、知識や技能、学び方、考え方、行動の仕方、人との関わり方などを、これからの生活の違う場面でも応用し、実践してほしいと思います。

子どもたちには、「やってみなくちゃわからない」という言葉のように、様々なことにチャレンジしてほしいと思っています。また、「やっただけでは身につかない」ということを心にとめ、常に学び、成長し続ける人であってほしいと思います。

■10月14日（土） 体験学習の日■

本校では、体験的な学習の充実を図り、10月14日（土）を「体験学習の日」として、1・2年生においてキャリア教育の一環として、学年ごとのプランで体験学習を実施します。なお、3年生は受験期を迎えているため、教科の授業を行います。

【1年生】 1年生は夏休みの宿題で「職業調べ」を行いました。さらに、今後の将来の夢や目標を考えるきっかけになる体験学習に取り組みせたいと考え、立川市にある東京ビューティー&ブライダル専門学校の協力をいただき、昨年度の2年生と同様に「お仕事体験」を実施します。

生徒たちは、保育「手遊び&プチ工作体験」、医療「病院の受付体験」・「薬の販売」、調理「スイーツづくり体験」、IT「ホームページ作り体験」、スポーツ「スポーツトレーナー体験」、介護「高齢者のサポート方法を知ろう」、美容「パラフィンパック&ハンドエステ体験」・「美容師&アイデザイナー体験」、ブライダル「オリジナルドレス制作、結婚式プロデュースコラージュ」といった多様な10コースから4つの仕事を選び体験します。

この体験学習を通して、働くことの意義や大切さについて考え、将来の進路を考える上で役に立つことを期待しています。また、体験を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、社会人としての言葉遣いや振る舞いを身につけること、来年度実施予定の「職場体験」につなげることも目的の一つです。当日は、班ごとに国分寺駅に集合し、その後現地まで移動します。現地での体験終了後も、国分寺駅まで班ごとに戻り、解散となります。

【2年生】 今年の2年生の体験学習は、防災に関わる取組を2本立てで行います。

1つ目は、避難所運営講座。地域防災に積極的に関わろうとするきっかけとし、防災リーダーとして活躍できる判断力を身に付けることをねらいとしています。災害時には中学生も避難所運営において貴重な力となります。今回は避難所運営を疑似体験するゲーム「HUG」を通して、避難者それぞれが抱える事情を、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるのか、また、避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを考え、相談し、判断して行動に移すという体験をします。

2つ目は、防災講話です。2011年の東日本大震災、福島県富岡町で小学校6年生のときに被災した講師の方（NPO法人富岡町3・11を語る会 宗像 涼さん）から、災害に関わるお話をいただきます。富岡町といえば、福島第一原子力発電所から20km圏内にあり、今なお一部地域は立入が制限されている町です。

「あの日、何が起きて、人々は何を考え、どう行動したのか。あの日から、何を考え、どこに向かって歩いてきたのか。自身の体験、現在の心境、復興への思いを語ります。一人でも多くの方に語り伝えることにより、福島の実情を知り、これからの福島をいっしょに考えていきたいと思うからです。」(HPより)

防災について考えを深める1日にしたいと思います。保護者や地域の皆様の参観もできますので、ふるってご参加ください。

■特別支援教室「一橋」の校内研修■

一橋教室は、学校全体の特別支援教育を推進する役割を担っています。9月1日には職員向けに「特別支援教育・一橋教室で行っている指導」「ユニバーサルデザイン・合理的配慮」「学校生活支援シート・連携型個別指導計画」という内容の校内研修会を行いました。研修会後の教職員からは、「体験活動を踏まえたわかりやすい内容でした」、「実際に左手で書く体験の時、「急いで」「丁寧に」などと声を掛けられてとても不安に思った。普段自分もこのような声掛けをしている時があると思う。気を付けようと思った」などの感想があり、「見る・聞く・書く」を実際に体験したことで、苦手さを抱えている生徒の気持ちを理解し、今後の特別支援教育に活かせる研修会となりました。

学習上や生活上の不安やご相談等がございましたら、一橋教室にご連絡ください。もしくはホームページに一橋教室の案内を掲載してありますのでご覧ください。

■生徒の活躍■

陸上競技部 小平市代表として選出されました。第76回東京都中学校支部対抗陸上競技大会出場者

【男子】 1年100m 安西 柊弥 共通200m・共通リレー 米山 倭世 共通400m 池田 響

1年1500m 浅川 仁 2年1500m・共通リレー 小熊 健祐 1年100mH 佐々木 英太

1・2年走高跳 鶴崎 悠翔 1・2年走高跳 平塚 健人 3年走幅跳・共通リレー 奥澤 雄音

【女子】 1年100m・共通リレー 藤井 日菜乃 2年100m 樽井 実桜 共通200m 武富 莉子

共通200m 福田 芽生 2年100mH・共通リレー 力石 依里香

剣道部 第61回小平市民体育祭剣道大会

男子中学2年生の部 第3位 白石 大輝 女子中学1年生の部 第3位 和田 郁花

女子中学2・3年生の部 準優勝 飯島 芽依 第3位 山内 紗瑛 第3位 福永 亜子

野球部 秋季大会ベスト8

ソフトテニス部 第10ブロック秋季新人大会団体準優勝 都大会出場権獲得